



I LOVE いしがき FB



I LOVE いしがき HP

## ミサイル基地の配備に反対するのは「平和ボケ」ですか？

I Love いしがき FB ページ 2017年2月21日投稿 3月23日補筆

「そうだ、平和ボケだよ！」という人は、この島に尖閣まで届く艦艇攻撃用ミサイルの基地を置いたらどうなるか、次のふたつのうち、どちらが正しいと思うでしょうか？

- (1) 中国は尖閣に近づけなくなり、石垣島は安心安全になる。
- (2) 中国が対抗措置を取るから、むしろ軍事的緊張が高まる。

多分、(1) と答えるでしょうね。でも、それこそ「平和ボケ」ではありませんか？

石垣島や宮古島にミサイル基地を置いたら、中国が「恐れ入りました」と引き下がるのでしょうか？「そんなもの、有事にはすぐに潰せる」と言っていますが。

実際、中国は先島を攻撃できる弾道ミサイルを何百基も持っています。目標をピンポイントで攻撃する地上配備型と艦載型の巡航ミサイルも大量にあります。それらが、大陸から、あるいは数百 km 彼方の艦艇から飛んできて、陸上自衛隊の 03 式中距離地対空誘導弾（ミサイル）は、主として航空機迎撃用なので、弾道ミサイルや高速巡航ミサイルは撃ち落とせません。その上、近年では、軍事予算もその伸び率も、中国の方が日本を上回っていますから、退却すべき軍事的理由なんてありません。

さらに、引き下がれない事情もあります。それは、中国政府が尖閣諸島を「日清戦争で日本に奪われた中国の領土」と主張して、国民の不満を「外敵」に逸らすナショナリズムの道具にしてきたからです。「日本がミサイルを構えたら黙って引き下がった」なんて、面子にかけてもできないことです。

野田内閣による「尖閣国有化」の時は、各地で起きた「反日暴動」をテコに、「海警」公船の領海侵犯を常態化させましたが、それは海洋警察力による進出でした。今度は、「日本がミサイルを配備したのだから、こちらはミサイル搭載艦を尖閣周辺に派遣する」などの、軍事的対抗措置に出るでしょう。警察力対警察力のならみあいですが、軍事力同士のならみあいになります。つまり、(2) になります。

実は、中国は、有事にアメリカと日本による海峡封鎖を打破し、宮古海峡など「太平洋への出口」を確保するために、東シナ海の家軍力強化をぜひとも必要としています。だから、こういう展開は好都合です。

一方、安倍政権も、「中国の脅威」と「尖閣の危機」を煽って、「戦争する国づくり」を進めることに大変熱心です。その裏には、有事には南西諸島の海峡を封鎖して、中

国海軍を東シナ海に封じ込めるアメリカ、日本両政府の方針があります。

防衛省も、石垣市民の質問への回答の中で、ミサイル基地の配備で緊張はむしろ高まり、軍拡競争になると見ていることを否定せず、「防衛省としては、引き続き、...適切な防衛力の整備を進めてまいります。」と言っています。

<https://www.facebook.com/loveishigaki/photos/a.953527301391709.1073741830.945461022198337/1041171822627256/?type=3>

<https://www.facebook.com/loveishigaki/photos/a.953527301391709.1073741830.945461022198337/1042187542525684/?type=3>

そうすると、軍拡競争はとまらず、「ミサイル攻撃で基地が潰されないよう、島中を頑丈な地下掩体壕でつないで要塞化する」とか、「敵基地攻撃用のミサイルを置く」とか言い出すでしょう。軍需産業は大喜びでしょうが、その先に住民の「安心安全」はありません。むしろ、「島が焼け野原になる日めざしてまっしぐら」になるでしょう。

それは困るのなら、「平和ボケ」の軍事力信仰などきっぱりやめて、非武装の島を貫くほうが賢明です。もちろん、ミサイル基地の配備は止めて。

中国も本当は尖閣戦争を避けたいのでは、と思える節は多々あります。大量のミサイルは、本来「台湾奪還」用で、尖閣や先島で使い切るわけにはいきません。南シナ海の問題も、アメリカ海軍が入ってきて手いっぱい状態です。それなのに、大した資源も軍事的価値もない絶海の無人島のために、「一人っ子政策」で減ってしまった若者の命をかけられるでしょうか？習近平氏側近の空軍上将も、「安倍政権は発足後、釣魚島問題で中国に強硬な対応を余儀なくさせているが、これは安倍の仕掛けた罠に引っ掛かっている」、「西側の報道では日本の海軍力は世界第二位」、「日本空軍の戦闘機稼働率は90%で、米軍の80%をも上回る」、「中国は武力衝突を極力避けるべきだ」などと論じています。

<http://loveishigaki.jp/archive/argument/JapanMadeThreatOfChina.pdf>

負ければ政権崩壊につながりかねない賭けなんて、出来れば避けたいのでしょう。

確かに、海上、航空自衛隊は強力で、侵攻を撃退して早期停戦に追い込む「拒否的抑止力」は十分に持っていると言われます。であれば、こちらが島に対艦ミサイルを配備して緊張を高めたりしない限り、中国にとって尖閣、ましてや石垣島を攻める差し迫った理由はありません。この条件を活かして、平和的外交的な努力による紛争解決に全力をあげるこそ大事です。